

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

「もしドラ」がベストセラーになったため、ドラッカー関係のビジネス書も多数出版されています。私も数冊読みました。しかしドラッカー自身の著作である『エッセンシャル版マネジメント』は半分程度読んだところで中断しています。翻訳本であるせいか（学者が専門用語を駆使して格調高く仕上げている場合は特に）難解でイメージし難いところもあり、かなり疲れます。こちらもベストセラーだそうですが、皆さんきちんと理解出来ているのでしょうか。一般教養として学ぶのは悪いことではありませんが、あまり役に立たないかもしれません。やはり現役の経営者や管理職が自分の組織や仕事を考える上でのヒントにはなるでしょう。そして、当てはまる悪い例は探せばいくらかもあることでしょう。具体的なノウハウ本ではありませんので、立場や経験により理解が変わってくると思われまます。ドラッカーはヨーロッパ生まれでイギリス、アメリカと渡っているせいか、一般的なアメリカ的合理主義と異なり さらに東洋思想に通じるような考えをもっているように思えます。それで哲学や宗教書のように理解が深まるのかもしれませんが。だから成功した企業の経営者にも信奉者が多いと思われまます。1回読んで終わりというものではなく、時間をおいて繰り返すことにより役立つものようです。また、エッセンシャル版は名著「マネジメント 課題、責任、実践」を四分の1程度に要約されたものだから、厚い原著（日本語版は2～3分冊、発行時期により違う）を読む方が分かりやすいとも言われています。「もしドラ」の著者へのインタビュー記事によると 若い世代（社会人）にドラッカーの「マネジメント」に興味を持ってもらうため青春小説を書いたが、対象としたよりも若い世代が買ってくれて予想以上のベストセラーになったそうです。うちの事務所で週一回行なっている朝のプレゼンの勉強会（テーマは自由で、体験や読んだ本などを15分で発表する）でも、今2人はドラッカー関連です。私は学生時代からドラッカーは経営学での著名な学者だと知っていたのですが あまり興味がなく ふれる機会はありませんでした。一時のブームに終わらず長く学んでいけたら良いと思います。ドラッカーは経営学者のみならず、社会学者(自称：社会生態学者) や経営コンサルタントとしても有名です。本当に優れた人は活躍する分野が広いものです。ビジネスにおいて、ドラッカーを学ぶ意味は 自分が何をすべきかが次第に見えてくるような 大切な基本となるものです。

今回はドラッカーについて取り上げましたが、何かきっかけとなることから、興味を示し深く入っていくことは、悪くないと思います。最近ではニーチェのような哲学や論語などの中国古典、「学問のススメ」のような昔のベストセラーなどの 現代語訳、新訳、超訳、ビジネス訳など多数の本が出版されています。中小零細企業において 不況が続くうえ、震災や自然災害など続く現代、しっかりと心支え、基本となる考えが必要とされています。優れたものを学ぶ（学び直す）時期なのかもしれません。